

2 国内情報

九州における 畜産環境保全・リサイクル技術検討会の展開状況

九州農政局生産流通部畜産課 畜産環境対策官 上土井真一

1. はじめに

九州は温暖な気象等の自然条件に恵まれ、多様な農業生産が行われ、日本の食糧供給基地として位置づけられている。

特に、畜産は農業粗生産額の3割以上を占めており、九州農業の基幹部門となっている。

しかしながら、近年、経営者の高齢化、後継者不足、環境問題等により畜産農家戸数は減少傾向にある。

このため、21世紀に向けて我が国農業の安定的な発展を図るため、農業の主な分野において、生産性の向上に大きく寄与し、担い手が夢と可能性をもてるような技術(農業キーテクノロジー)について、今世紀中の確立を目指し、行政と試験研究機関等が一体となり推進している。

全国段階では10項目の重点課題が設定されているが、九州地域では地域の特殊性を活かした7項目の重点課題を設定し推進しており、この1項目に「畜産環境保全・リサイクル技術」を取り上げ、現在、以下の取組みを行っている。

2. 「畜産環境保全・リサイクル技術検討会」の設置

近年の混住化や規模拡大の進展等に伴い、畜産環境問題が深刻化しており、今後の畜産経営の健全な発展のためには畜産環境問題の解決が重要な課題となっている。

特に、九州地域は家畜の濃密飼養地域を抱えることから、堆きゅう肥の有効利用と円滑な流通を図ることが重要である。

一方、耕種部門においても、化学肥料の多投入が環境へ及ぼす影響が懸念されており、地力の向上や有機農産物の生産のために、良質堆きゅう肥生産への要請が強まっている。

このため、家畜飼養からふん尿処理及び堆きゅう肥の流通に至る各段階において、環境保全に資する技術を開発するとともに、これらを農家技術として早急に確立することを目的として「畜産環境保全・リサイクル技術検討会」を9年1月13日に設置した。

検討会では、九州管内の国、県レベルの行政と試験研究機関が一体となり、

- (1) 畜産環境に関する各種情報の迅速な把握と共有化の推進
- (2) 現場におけるニーズと課題を踏まえた技術の開発と実用化、普及の推進
- (3) 各県における畜産環境保全対策重点指導地域(モデル地域)の設置による解決手法の検討を大きな柱に各種活動を実施している。

3. 具体的な取組み

(1) これまでの取組状況

① 畜産環境保全・リサイクル技術検討会の開催

畜産環境保全に係る家畜ふん尿処理技術及び環境負荷物質の低減化技術について、各試験研究機関との共同試験、実証試験の推進等により、農家段階での早期普及を図ることを目的として、九州管内各県の行政、普及、試験研究機関、畜産団体・農協、九州農業試験場の関係者が一堂に会し、会議及び現地検討会を開催している。(9年度は、6月、12月の2回開催。10年度は1回目を4月開催)

② 「畜産・耕種ともに考える環境保全型農業シンポジウム」の開催

耕種サイドのニーズに対応した堆きゅう肥生産、広域流通化及び土づくりのあり方についての認識を深め堆きゅう肥の流通・利用の円滑化に資することを目的として、9年10月、鹿児島市において、畜産サイドと耕種サイドの共催により、環境保全型農業シンポジウムを開催した。(出席者:国、県、市町村の畜産、耕種部門の行政、普及、指導機関、試験研究機関、農協、民間団体、畜産・耕種農家 計550名)

シンポジウムでは、畜産サイドからは、日頃、良質堆きゅう肥生産に努力し利用拡大を図っている筑前あさくら農協朝倉堆肥センター、(有)はざま、串間市大東農協、松山農産、耕

種サイドとしては、堆きゅう肥を積極的に活用し土づくりを推進している耕種農家の大平農場、JA鹿本農業技術開発センターが、パネリストとして出席し、事例発表と助言者及び会場からの質疑に応えた。

③ 畜産環境保全対策の重点指導

畜産環境保全対策重点指導地域(モデル地域)の環境保全対策の優良化とともに、他の地域への紹介による波及効果から、県全体の環境保全対策のレベルアップを図ることを目的として、九州各県に畜産環境保全対策の重点指導地域を設置した。(7県7地区)

④ 畜産環境保全関係補助事業を活用した家畜ふん尿処理施設の整備、家畜ふん尿処理技術の実用化・調査

ア 畜産環境保全の推進と家畜ふん尿のリサイクルを促進することを目的として、平成9年度は、九州地域内の33地区で家畜ふん尿処理施設を整備した。

イ 家畜ふん尿の処理技術の普及を推進することを目的として、家畜ふん尿の浄化及び成形化についての実証調査を実施した。(管内3県)

⑤ 畜産環境保全情報体制の整備

ア 「九州地域における畜産環境保全優良事例集」の作成配布(9年12月)

農家段階の環境保全技術の普及拡大に資することを目的として、九州各地に見られるふん尿処理の優良事例について、類型化・拡充し作成した。(4類型、35事例を掲載)

イ 「九州地域における堆きゅう肥の供給・需要情報」の作成配布(9年12月)

関係者間の情報交換により、堆きゅう肥の地域内または広域での流通・利用の円滑化を図ることを目的として、九州地域内の堆きゅう肥生産者、流通業者、需要者のリストを作成した。(収録件数:1641件)

(2)10年度の取組の目標

① 畜産環境保全・リサイクル技術検討会の開催

畜産環境保全に係る家畜ふん尿処理技術及び環境負荷物質の低減化技術について、農家段階での早期普及を図ることを目的として検討会を開催し、各試験研究機関との共同試験、実証試験等を推進することとする。(10年度は、3回開催予定)

特に、畜産地帯における余剰家畜ふん尿の成分調整堆肥利用システムの確立の推進を目的として、10年度から実施する九州農業試験場の地域先導技術総合研究「新規形質作物を基幹とした耕畜営農システムの確立」に期待する。

② 環境保全型農業シンポジウムの開催

畜産農家と耕種農家の連携を強化し、家畜ふん尿処理技術の向上及び堆きゅう肥の利用促進等を図ることを目的として、畜産サイドと耕種サイドの共催により、環境保全型農業シンポジウムの開催を計画している。(10年11月、於:宮崎市)

③ 畜産環境保全対策の重点指導

畜産環境保全対策重点指導地域(モデル地域)において、重点的な家畜ふん尿処理施設の整備、良質堆きゅう肥を利用した作物の実証展示及び堆きゅう肥共励会等を開催し、家畜ふん尿処理技術指導を実施することとする。

④ 畜産環境保全関係補助事業を活用した家畜ふん尿処理施設の整備、汚濁負荷物質低減化技術の実用化・調査

ア 畜産環境保全の推進と家畜ふん尿のリサイクルを促進することを目的として、家畜ふん尿の効率的処理施設及び家畜ふん尿に有機質資源を副資材として加えた有機質資源リサイクルセンター等の整備を図ることとする。

イ 家畜ふん尿処理の低コスト化を図ることを目的として、飼料への酵素添加について汚濁負荷物質低減化技術について、実用化のための調査・検討を実施することとする。

⑤ 畜産環境保全情報体制の整備

ア 現在普及している家畜ふん尿処理法は種々あるものの、処理方法別、経営規模別の家畜ふん尿処理コスト(維持管理費等を含む)についての調査結果が少ない。

このため、処理方法別、経営規模別の家畜ふん尿処理コストの実態を把握し、家畜ふん尿処理施設を設置する場合の経営規模に応じた家畜ふん尿処理法・処理能力等の的確な判断材料に資する観点から、有識者に家畜ふん尿処理形態別のコストについて調査を依頼し、調査結果を体系的に取りまとめの上、印刷物として作成・配布することとする。

イ 堆きゅう肥の利用拡大及び広域流通の促進を図る観点から、耕種サイドのニーズに対

応した良質な堆きゅう肥生産、堆きゅう肥散布サービス等、効果的な運営状況に焦点を絞り共同利用堆肥センター等を調査し、調査結果を印刷物として作成・配布することとする。
 ウ 畜産環境保全に係る行政・技術・事例等の情報を関係者にリアルタイムで提供し、畜産環境保全対策の円滑な推進を図る観点から、九州農政局の10年度中のホームページ開設の動きに合わせ、畜産環境部門の体制整備を図ることとする。(情報のインターネット化)

モデル地域における取組の基本方針・取組状況

県名 (モデル地区名)	取組の基本方針・取組状況
福岡 (嘉穂町)	耕種農家との連携による有機農業の推進。 堆きゅう肥の利用促進の啓発、実証展示及び施設整備。
佐賀 (白石地区農業共同組合管内)	畜産・耕種連携強化による良質な堆きゅう肥利用の推進。 堆きゅう肥の栽培実証試験等の実施。
長崎 (大村湾及び諫早湾周辺地域)	閉鎖性水域における水質保全対策の推進。 家畜ふん尿中の負荷物質低減化及びふん尿処理施設の整備。
熊本 (球磨地域)	畜産環境問題の解消と耕種農業における堆きゅう肥利用の推進。 堆きゅう肥を利用した実証展示圃の設置、農家の環境保全に対する意識啓発活動。
大分 (佐伯南部地域)	家畜ふん尿の適正処理の推進。 腐植物質を活用したふん尿処理施設の整備。
宮崎 (延岡市)	環境保全型畜産経営の推進。 堆きゅう肥を利用した実証展示圃の設置及び堆肥散布機の利用拡大のための技術検討会等の開催。
鹿児島 (穎娃町)	地域社会環境と調和のとれた畜産経営の推進。 家畜ふん尿処理施設の計画的整備及び耕種農家との連携強化による堆きゅう肥流通の円滑化。